

授業科目名 (英文名)	Health Care Communication (専門関連科目) (Health Care Communication)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2年次・後期
担当教員	大田垣 裕子	所属	看護学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>社会の国際化にともない、看護分野における英語力の必要性が増してきている。本講義では現場で使われる英語が基本的には英語を母語としない人々の意思疎通のための言語ととらえ、様々な医療の場で英語によるコミュニケーションが取れるようになることを目指す。到達目標は(1)基礎的な語彙・文法を確認し、(2)必須関連専門英語表現を身につけ、(3)国内外の医療活動に必要な英語コミュニケーション力を習得することである。</p>		
講義内容・授業計画	<p>クラスでは基礎的な語彙・文法と必須関連専門英語表現を押さえながら、様々な医療の場で行われる会話を取り上げて、繰り返しペアワーク等で練習を重ねる。各場面で文化の違いから生じる相手への配慮の必要性についても考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction 2 . Hospital Departments 3 . Application Forms 4 . Parts of the Body 5 . Illnesses 6 . Review: Units 1-4 7 . Daily Routine 8 . Hospital Objects 9 . Locations of Hospital Objects 10 . Hospital Directions and Instructions 11 . Review: Units 5-8 12 . Directions (Outside the Hospital) 13 . Chatting with a Patient 14 . Taking a Medical History 15 . Hospital Procedure, Review: Units 9-12 16 . Final Test 		
テキスト	<p>Vivian Morooka and Terri Sugiura, Vital Signs: Essential English for Healthcare Professionals 【Revised Edition】 , Nan ' un-do, 2017 (生協で購入する。) 必要に応じて補助教材を授業時に配布する。</p>		
参考文献	<p>Longman Online Dictionary, Oxford Learner's Dictionariesその他、授業時に適宜紹介する。</p>		
成績評価の基準・方法	<p>成績の基準 医療の現場で英語による基本的で適切なコミュニケーションができる者に単位を授与する。 講義目的・到達目標に記載する能力(知識・技能、思考力、表現力等)の到達度に応じてSからCまで成績を与える。 成績評価の方法 期末試験50%を基準として、平常点(到達度確認小テスト30%、授業参加状況20%)を含めて総合的に評価する。</p>		
履修上の注意・履修要件	<p>出席日数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則、単位を修得できない。「講義内容・授業計画」に記載した次回授業で扱う範囲の英文を読み、知らない単語等の意味と音を確認しておくこと。また、復習して学んだことを定着させること。 到達度確認のために毎週、重要語彙・表現クイズ、半期で数回の口頭試験を行うので</p>		

	準備をしておくこと。
実践的教育	該当しない
備考	